

3.初発の5大癌のUICC 病期分類ならびに再発患者数

癌の5大癌と呼ばれる、胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌の症例数を初発のUICC病期(ステージ)分類別、および再発に分けて集計しました。

定 義

- ◇集計期間に退院した症例
 - ◇同じ患者さんが複数回入院している場合はそれぞれ1例としてカウント
 - ◇初発例としてカウントした患者は再発例にはカウントしない。
 - ◇国際対がん連合(UICC)によって定められた、※原発巣の大きさと進展度(T)、所属リンパ節への転移状況(N)、遠隔転移の有無(M)の要素によって各癌をⅠ期～Ⅳ期の5病期(ステージ)に分類
- ※原発巣・・・癌が最初に発生した場所にある病巣

部位	UICC 病期分類(ステージ) (初発)					再発
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	不明	
胃癌	28	6	4	7	0	10
大腸癌	10	12	42	87	0	68
乳癌	11	12	4	1	0	6
肺癌	1	1	1	14	0	2
肝癌	1	11	6	7	0	2

UICC 分類第 7 版

解 説

当院での癌症例を病期分類で見た場合、胃癌は初期のステージ割合が非常に多いことが判ります。胃癌の治療は全症例のうち半分が内視鏡下で切除しており、短期間で退院しています。開腹で切除した症例でも、手術後の予後は良好で外来で経過観察しています。

大腸癌や肺癌はステージⅣ（転移あり）の症例が多くなっていますが、化学療法のために同じ患者さんが繰り返し複数回入院しているためです。再発した場合には化学療法が治療の主体となりますが、当院では化学療法専任の看護師や薬剤師が医師と協力して治療、副作用対策を行っています。

また、トモセラピーの設備があり、乳癌や前立腺癌などは外来通院で照射を行うため、他病院から紹介されて治療を行っています。